

新しい授業づくりの文化をつくる 「吹田の授業づくり Update プラン」 校内研究活性化プラン

令和7年8月29日実施 Update プラン通信 第7号 小国 教材研究会

小国教材研究会 8月29日(金)
単元名:注文の多い料理店

「吹田の授業づくり Update プラン」校内研究活性化プランでは、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は小学校国語科の教材研究会を行いました。授業者より、クライマックスでの盛り上がりや表現の工夫に着目することで、おもしろさや作者の意図等を感じ取り、読書に親しめる姿や力をつける展開について提案していただきました。齊藤先生より、柱書の実装が深い学びの実現であるということをご指導いただきました。子どもの力を引き出し、生かすということを大事にし、教師はどのような役割を果たすべきなのかを学び、改めて自身を問い直すきっかけをいただきました。この学びを基に、10月31日(金)の授業研究会へ向けて、さらなる授業改善に挑みます。

授業者の提案

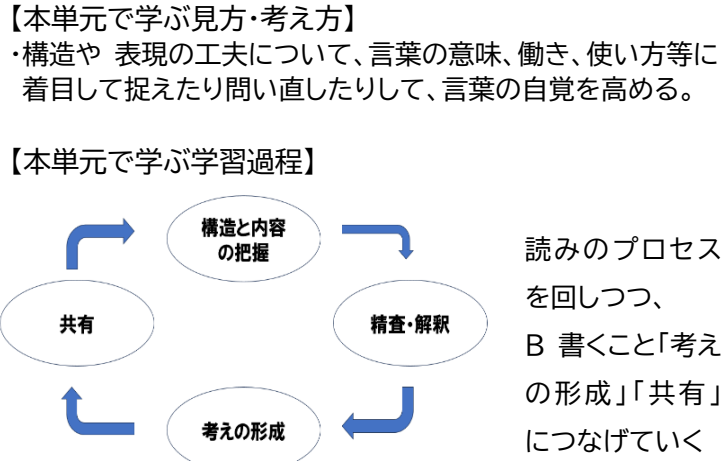
Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

- 【現在の子供の姿】
 - ・子どもたちは「読書」から離れている。
 - ・表現の工夫には気付くことはできたが、意図まで理解するには至っていない。
- 【知識及び技能】
 - ・比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
- 【思考力・判断力・表現力】
 - ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
- 【学びに向かう力、人間性等】
 - ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

What 何を学ぶのか

子供達の学習対象は？



— 講座の目標 —

吹田市の全小中学校が学習指導要領
に基づいた授業づくりに取り組む。

授業づくりのプロセス

単元を創る	学習指導要領に基づいて	本時を創る
・育成すべき資質・能力を明確にする ・見方・考え方の成長をイメージする	・目指すゴールに対応した問い ・教科ならではの学習過程（プロセス） ・見方・考え方を伸長させる明示的指導	
授業づくりにおいて大切にしたいこと		
子供が切実性・必然性の ある問いを持つ	教師が学習過程（プロセス） も能力であると捉える	子供が自分自身の 成長を実感する

How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

物語の構成を捉え、文中の表現や言葉の意味や使い方に着目し、クライマックス
について考え、帯を作成する。

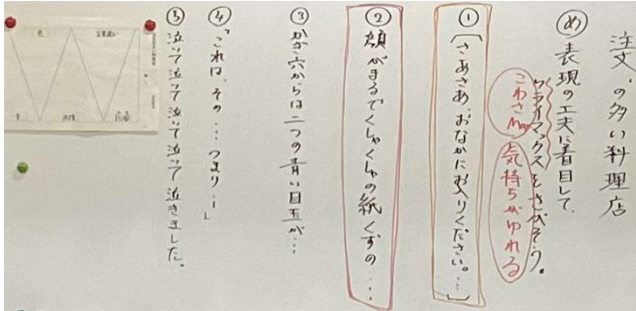
時	学習過程	見方・考え方を働かせている子供の姿
1	題材の設定	・表現、擬音語等に注目して読んでいる。
2・3	把握	・人物に関する叙述や描写をもとに、人物像や相互関係を捉えている。 ・戸の注文と紳士の言葉を関係づけながら、心情の移り変わりを捉えている。
4 ~ 7 本時 第6時	精査・解釈	・場面分けを通して、現実世界とファンタジーの世界の境界線について、捉えたり問い直したりすることで、構造の工夫を深めている。 ・文中の色使い、擬音語と紳士の心情を重ね合わせながら読むことで、より深く紳士の不安や興奮度合いを捉えようとしている。 ・(本時)クライマックスへ向かうための工夫、中心人物の心情が隠れている描写を探して読むことで、物語の全体像とその解釈を捉え直している。 ・物語の全体像から、物語が伝えたいことを考えている。
8・9	考えの形成	・「この表現や仕掛けがあることによって、この展開につながっている。」など、工夫が与えている効果を具体的に考えている。
10	共有	・交流会を通して、自分にはない読みの捉え方を知り、物語の解釈を広げている。

【単元終了時の目指す子供の具体的な姿】

・言葉の意味、働き、使い方等に着目して言葉や表現のおもしろさを追求する中で、ほかの作品にも興味を持ち、進んで読書しようとする。

学習過程	構造と内容の把握	構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成
子供の問い	色や音の工夫以外にどんな表現の工夫があるだろう。	紳士の心情に関わる表現はどこだろう みんなはどこがクライマックスだと考えたのかな	この表現は紳士のどんな気持ちを表しているだろう 紳士の怖さレベルが上がったのはどこだろう	どの表現が物語を大きく動かしているだろう
本時の学習活動、内容	○学習課題 「表現の工夫に注目して、クライマックスを探そう。」 ○物語のクライマックスを捉える ○クライマックスだと分かる、根拠となる表現を探す。	○クライマックスが同じ人でグループ活動をする。 根拠の違いを共有する。 ○クライマックスが違う人でグループ活動をする。 読みの視点の違いを共有する。	○考えた意見を共有する。 →泣いて泣いて泣いて…(反復で強調している) →「うわあ。」がたがた…(おなかにおはいりくださの意味が分かったのでは。)	○今日の学習を振り返り、個人思考、共有した中で、どの表現が最も読者を引き込んでいるのかを考える。
見方・考え方	○言葉の意味や働きに注目して読み、表現一つ一つを捉え直している。	○見つけた表現が、紳士にどう影響しているのかを考えている。	○表現の効果を考える活動を通して、今までとは違った視点から物語を捉え直そうとしている。	○表現と物語全体を比較して、どのように作用しているのか考えている。
指導上の留意点(●) 評価規準及び評価の方法(★)	●W チャートを活用して、どんな表現方法があったかを振り返る ●「クライマックス」という言葉の共通認識を図る ★比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。【(1)ク】	●同じ範囲でも表現の叙述に対する気持ちの読み取りには違いがあることを意識させる。 ●違う範囲の人と交流するときは、反論はしないように指導する。 ●オクリンクのカードの色で立場を示す。話し合いの中で立場が変わったら、白のカードに変更する。 ★人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えている。【C(1)エ】		●次時のポスター作りをするにあたって、友だちの選んだ表現も積極的に取り入れられるように指導する。

模擬授業 板書



講師
NPO 法人
エデュ・ネットワーク・プラン 代表理事
齊藤 一弥氏
横浜市立小学校教諭、横浜市教育委員会勤務、横浜市立小学校校長、島根県立大学教授を経て、現職。
現行学習指導要領の作成に関わるとともに、高知県において学力向上総括専門官、教育課程推進専門官として授業改革に取組み、成果を上げている。



齊藤先生より

国語科の目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

What

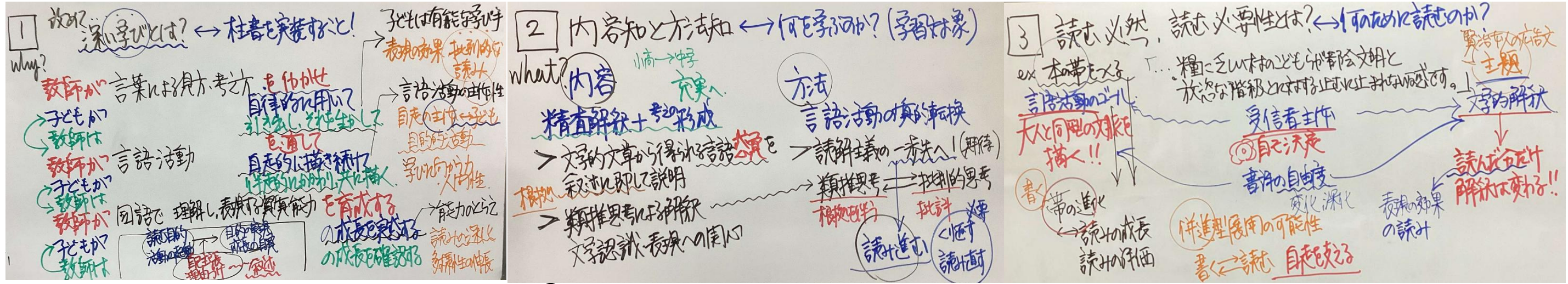
何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

How

どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？



1 主体的・対話的で深い学び・・・改めて「深い学び」とは？

「国語科という教科教育を、次代を生きる子どもたちのためにどのように展開するか」

「国語という教科を通して、どういう子どもを育てていきたいか」 ということを考えていきたい。

○深い学びとはどういうことか？

教科目標の柱書を実装すること

小学校学習指導要領解説 国語編 p11 第2章 第1節 1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

柱書の主語は誰？・・・教師

教師が 言葉による見方・考え方を働かせ、教師が 言語活動を通して、教師が 国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する

「学ぶ」の主語は？・・・子ども

子どもが 言葉による見方・考え方を働かせ、子どもが 言語活動を通して、子どもが 国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する

もういちど主語を教師に！

能力ベースの基本中の基本

「子どもを有能な学び手」

理由付けというのは、国語の場合は「**叙述**」に基づく。国語というのは、徹底的に語や文に起因して、「だからこう考える」「だからそうなる」ということを言い続けること。

読む目的 <活動の起動>

目的の実現 <成長の実感>

自己主張 理由付け

国語では叙述に基づく

『注文の多い料理店』を子どもに読ませて、どんな子を育てたいのか？

『注文の多い料理店』と出合った子どもたちがどんなものの見方をできるようになってほしいのか？

ココを考えて教材研究をする

どんな力を身につけさせたいのか？【子どもの有能さ】・【教師の役割】

【自律的に用いて】・【引き出し、生かす】

表現の工夫に気付く、「ユーモア」や「アイロニー」といった表現の効果に子どもは気付く。それを整えて、価値づけていくのが教師の役割。こういった読みをする中で、**批判的な読み**をする。これをしていきたい。

【自走的に描く】・【伴走的に関わる】

一番考えたいことは、言語活動の主体読み切れることをゴールとする。読み切った後の、成長実感を得る。→読解主義になってしまっている →何かが変わらなければいけない。

帯を最後に一回書く。ではなく、最初に書いて途中・最後の変容を捉えていく。つまり、言語活動を目的活動としていき、自走の主体を子どもにしていこう！

「もっとよくしたい」「もう一度読んでみよう」と批判的に読み続ける子どもへ

【成長を実感】・【成長の確認】

・読みの深化…読むための目的があり、そのために繰り返し読み、深めていく。・多様性の伸長…「あの人はこう。でも自分はこう考えた。」と言うように考えや解釈が違うことによって、文学的文章の持つ多様性を実感していくことが大事。

成長の実感というのは、自分の読みが変わったと感ずること。そのために、学びの主体を「子ども」にするためにも、言語活動を起動させる。目的の実現が成長実感となるが、中間での【自己主張】【理由付け】が重要！

2 「内容知」と「方法知」 cf. 内容知:事実の知識 (例)「水は液体である」 方法知:実践的な知識 (例)「自転車に乗る方法」

教育では、組合わせて学ぶことが求められている。つまり、知識を単に知っているだけでなく、どのように活用できるかを学ぶ。

【内容知】

○言語感覚

説明的文章…日常的表現⇒論理

文学的文章…文学的表現⇒感覚

○類推思考による解釈

⇒根拠に基づいて思考すること

その言葉を使った作者が一体どんな思いでいるのかは、論理ではなく感覚や感情で読み解かれるべきもの

子どもたちが「こんな風に感じた」という感覚を叙述に即して説明する。

子どもたちが「あの段落にもこう書いてあった。だからこうなんだよ。」というように類推すること。

【方法知】

言語活動の質的転換を図っていききたい

「読む」ということがゴールになってしまい、読解主義が強くなっている。

○類推思考と批判的思考の往還

類推思考は「根拠」 批判的思考は「批評」

往還し、繰り返し読み進むということをしていきたい。

一旦帯書いたけど、「本当に大丈夫かな」「友達はこんなこと書いてるな…もう一度書こう」というように、子どもが「読み進む」「読み直す」必要を考えられるような学習展開にしていきたい。

3 学びに向かう力・人間性の重視

「二人の青年紳士が獺に出て路を迷い「注文の多い料理店」に入りその途方もない経営者から却って注文されていた話。糧に乏しい村の子どもらが都会文明と放恣な階級とに対する止むに止まらない反感です。」

つまり、これは作品の【主題】

発達段階に応じ、小学生でできる範囲内で

言語活動は大人と同型の文脈にしていきたい

帯を書いている途中や最後に書く前に、賢治はこう考えた子どもたちに触れさせたい。こういう情報を子どもに取りに行ってもらいたい。…DXで可能になった。

○説明的文章と文学的文章

説明的文章は、書いた発信者の意図、理解、内容を確実に読みこなすことが大事。自分勝手な解釈や事実の歪曲は期待されていない。

文学的文章は受信者主体。書いた本人と自分の解釈は違うかもしれない。

文学的文章で大事にしたいことは【受信者主体】

→文学的文章の言語活動のゴールは読み手主体になる

「自己決定」が重要視される。ある程度の解釈の自由度もある。⇒自由だからこそ、何度も解釈を繰り返していき、子どもたち自身の読みが変化、深化していく。……こういったところが大切にされている。

帯が変化していく＝読みの成長・読みの評価。 読んだ分だけ帯が変わる最後に帯を書くという仕事にせず、繰り返し書いていくことが重要

○併進型展開の可能性

併進⇒「書く」「読む」。 読みながら書く

これは自走を支える。つまりクリティカルな学びを支える。自らの帯を「これでよいか」と問い直し、繰り返し書くことで成長を実感できるようになる。

受講者の感想

●教師の「やりたい！」「こんな姿を見たい！」は多くあるが、それを押しつけない、子どもとともに！ということに改めて学んだ。

●学びが深く、【読む】についての捉えが大きく変化した。

●柱書を教師→子ども→教師と置き換えていくことで、国語科での目標が明確になった。